

〈第17回 解答と解説〉

			1
問1	C		問2
問3	E		おいにはじて
問4	A <small>別</small>	自分でもすばらしいと思った	
	B	浅ましく拙し	
	C <small>別</small>	しばらくの間鑑賞している	

解説

1 〈全訳〉 狩野尚信かのう なおのぶは名高い画

家である。その子の常信つねのぶも父の仕事を継いで、絵を描くことにだけ専念したが、ある時、竹の絵を描いて父に見せたところ、(父は)ひどく拙つたないと言って、興味がなさそうに見えたので、(常信は)とても恥じ入ってそれから毎日描き続けたいへん思い悩んで机に寄りかかって居眠りをしたが、日が暮れてとても寒くなつたために目を覚ましたところ、月の光が窓にさしこんで、軒端のきばの(月光に照らされた)竹の姿が言いようもなく心ひかれる景色だったので、すぐに筆をとってその様子を描いてみると、(その仕上がり)が(自分でもすばらしいと思ったので、急いで父のもとに持って行って見せると、尚信はたいそう喜び、「よくぞ描いたことよ」と言って、しばらくの間鑑賞して、「これは夜の竹である。葉の勢いが皆(外に向かわず)内にとどまっているのは」と言ったことである。